

9月4日（火） 海外実地研究 10日目

本日は、オスロ中心部からノルウェー第2の規模を誇る港湾都市「ベルゲン」への移動を行いました。移動しながらフィヨルドを眺め、観察し、大地形への理解と体験をすることが出来ました。

まず8:25のベルゲン急行でオスロ中央駅を出発し、ミュルダール駅へと向かいました。右の地図の中で赤いピンが刺さっているところがミュルダール駅です。オスロから電車で約4時間半という、新幹線にすると東京ー広島間以上距離でした。しかし、移り変わる自然と車窓の景観の変化に夢中であつたという間でした。

下の2枚の農地の写真は、左が穀倉地帯で右が牧草地のものになります。停車する主要な駅から10分ほど走行するとまず穀倉地帯が広がっています。それから数分走ると、牧草地が広がっており、収穫を終えたソルガムやトウモロコシの茎の部分からつくられる「ホールクロップサイレージ」という牛の飼料が転がっていました。



右の写真の電車が、ミュルダール駅まで乗っていた電車です。先頭に機関車がついておりその駆動車に引っ張られてこの駅まで走ってきました。駅に到着すると、標高は約860mにも達していました。

そしてこの駅で「世界で最も美しい鉄道の旅」の一つとして知られるフロム鉄道に乗り換え、車窓から壮大な氷河地形を眺めながら高速船乗り換えのフロム駅まで乗車



しました。

フロムからは右の写真の高速船に乗り、ベルゲンまでの約 5 時間フィヨルドの海を航海しました。フィヨルドとはノルウェー語で「深く入り込んだ湾」という意味です。高速船が運航していたのは、海岸線から深く入り込んだ入り江の全長は 204km。周囲には標高 1,700m を超える山々が連なり、最深部の水深が 1,308m にも及ぶ世界最大スケールのフィヨルドです。

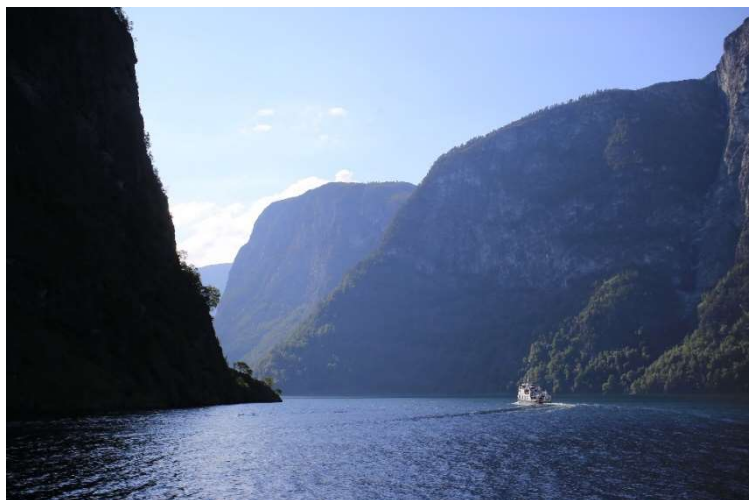


船旅の最中、航海のルートマップを片手に壮大な景観に圧倒されていました。「入り込んだ湾」というのが本当にふさわしく、海岸線の複雑さや岸壁の浸食などを間近で確認することが出来、この旅一番の感動的な体験をしたともいえます。約 30 ノットで進む高速船のため、デッキの上は、とても風が強くそれは冷たいものでした。



フロムを出発してから 1 時間ほどは特に、左右の岩壁の距離がとても狭く、フィヨルドの壮大さを身もって感じる事が出来ました。

長い移動時間を経て、ベルゲンに到着したのが午後 9 時頃でした。しかし高緯度地域のため、この時間はとても夕焼けが美しかったです。複雑な地形が相まって、陰影が特徴的なトワイライトタイムとなっていました。



(作成者：社会学科 1 年 赤松茄恵，地理学科 2 年 三井優紀)